

# わたしの主張2025

—第47回少年の主張秋田県大会—

## 発表記録集



主催 秋田県・独立行政法人国立青少年教育振興機構  
共催 秋田県教育委員会

◇◇◇◇ も く じ ◇◇◇◇

◇はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
秋田県あきた未来創造部	
次世代・女性活躍支援課長	糯田正宏
◇大会風景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
◇第47回少年の主張秋田県大会入賞作品	
最優秀賞 「ごめん、もう一回言って？」・・・・・・・・	3
秋田市立秋田東中学校2年	二田暖乃
優秀賞 自信をもって生きること・・・・・・・・	4
北秋田市立鷹巣中学校3年	中川心紡
優秀賞 「ふつう」の顔をした偏見・・・・・・・・	5
横手市立十文字中学校3年	佐藤小春
優良賞 水を大切にするために・・・・・・・・	6
大館市立北陽中学校3年	渡邊穂乃香
優良賞 知ること、そして欲張らないこと・・・・・・・・	7
秋田市立岩見三内中学校3年	高橋きい
優良賞 皆瀬にスマイルを・・・・・・・・	8
湯沢市立皆瀬中学校3年	佐藤來空
◇審査講評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
◇発表原稿応募学校・学年別一覧・・・・・・・・	10
◇第47回少年の主張秋田県大会審査委員	11
◇発表原稿募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・	12
◇事前審査基準・・・・・・・・・・・・・・・・	14
◇審査基準・・・・・・・・・・・・・・・・	16
◇第47回少年の主張全国大会内閣総理大臣賞受賞作品	
伝える・・・・・・・・・・・・・・・・	18
鳥取県鳥取市立桜ヶ丘中学校3年	谷口鉄馬

## はじめに

令和7年9月23日（火・祝）、「わたしの主張2025－第47回少年の主張秋田県大会－」を開催いたしました。

本大会は、中学生が日常生活の中で感じた思いや考え、あるいは社会に向けての意見や未来への希望など、自らの主張を自分自身の言葉で表現し、広く発表する大会として、「少年の主張全国大会」の秋田県予選を兼ねて開催しております。

今年度は、独立行政法人国立青少年教育振興機構と本県が主催となり、県教育委員会の共催のもと、開催いたしました。従来は県北・県央・県南の3地区で地区予選大会が行われていましたが、今年度は開催形式を見直し、地区予選大会を秋田県大会に一本化いたしました。また、より多くの方々に主張を届けられるよう、秋田拠点センターALVEのきらめき広場を主張発表大会の会場といたしました。

今回は、県内12校から計15作品の御応募をいただきました。どの作品も、日頃の生活の中で見つけた学びや疑問、ふるさとへの思いなど、中学生の皆さんが日頃心の中でためてきた思いが込められた作品ばかりでした。

募集終了後は、これまでの地区予選大会に代わって事前の原稿審査を行い、秋田県大会出場者6名を決定し、出場者による主張発表大会を開催いたしました。

大会当日は、出場者6名が大勢の聴衆に向けて自らの主張を訴えかけ、会場中が堂々と発表する出場者の姿に感銘を受けるとともに、その熱のこもった発表に耳を傾けていました。発表終了後、審査委員による最終審査を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名、優良賞3名を決定し、今年度の秋田県大会は終了となりました。

大会終了後は、最優秀賞を受賞された秋田市立秋田東中学校2年 二田 暖乃（ふただ・はるの）さんを、本県から「第47回少年の主張全国大会」の北海道・東北ブロック代表候補者として推薦いたしました。残念ながら、北海道・東北ブロック代表者への選出とはなりませんでしたが、二田さんには令和7年11月16日（日）に開催された全国大会において国立青少年教育振興機構から努力賞が贈られました。

本記録集では、秋田県大会に出場された6名の作品を掲載しています。いずれも中学生らしい感性豊かな文章で綴られていますので、1人でも多くの方々にその主張をお届けできると幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、御応募いただいた県内の中学生の皆さん、そして大会開催に多大な御協力をいただきました審査委員の方々並びに県教育委員会、各学校関係者をはじめとする多くの関係機関・団体等の皆様に心から感謝申し上げます。

令和8年1月

秋田県あきた未来創造部

次世代・女性活躍支援課長 糯田 正宏

# わたしの主張2025 - 第47回少年の主張秋田県大会 - 大会風景



会場風景



開会



最優秀賞 二田 暖乃 さん



優秀賞 中川 心紡 さん



優秀賞 佐藤 小春 さん



優良賞 渡邊 穂乃香 さん



優良賞 高橋 さい さん



優良賞 佐藤 來空 さん



表彰



講評

## 第47回少年の主張秋田県大会 最優秀賞

秋田市立秋田東中学校

2年 <sup>ふた</sup> <sup>だ</sup> <sup>はる</sup> <sup>の</sup>  
二 田 暖 乃

「ごめん、もう一回言って？」



「ごめん、もう一回言って？」

この言葉は私が一日に五回は言うセリフです。休日買い物に出掛けるともっと増えます。たまに私でも「あーまただよ…」と思うことも…だけどわざとじゃないんです。私は「聞き取り困難症」というちょっと不思議な耳の持ち主なんです。

「聞き取り困難症？初めて聞いた！」と思う人も多いのではないのでしょうか？見た目はふつうの耳ですが、言葉の一部が聞こえにくかったり、音が重なって聞き分けできなかつたりするんです。たとえば、「今日の給食カレーだよ！」が「今日の〇〇カレーだよ！」という感じで肝心なところがノイズがかかったようになります。ひどい時は「今日の牛がカレーだよ！」みたいに聞こえて、牛に申し訳ないなあと思ってしまいます。

そんな中、学校ではさまざまな音が飛びかっているんです。友達の話し声、ノートのページをめくる音、さらに先生の声、もはや私にとって教室は騒音の交差点です。相手には本当に申し訳ないのですが、言うしかないセリフが…

「ごめん、もう一回言って？」

そう私が友達と話す時も意外と苦勞します。雑談なんて覚悟を決めていざ聞くと全部ノイズまみれで私は絶望。みんな案外早口だったり、声が小さかったりするので私は三回ぐらい聞き返すと、相手は呆れながら「あ、聞く気ないならもういいよ」と地味に刺さる言葉を言われて少し落ち込んだりする事もあります。けどもし私が相手側だとしたら、私も同じことを言ってしまうかもしれないので、少し難しいところです。

最近、伝えることで日常生活が過ごしやすくなりました。「聞き取りにくくなることがあるから、ゆっくり話してくれると助かる」と友達に伝えたら、ゆっくり丁寧に話してくれたり、メモを取ってくれたり、無理のない程度に助けてもらっています。

もしかしたら、この話を聞いている人の中にも「あれ？私も同じかも？」と思った人はいませんか？実はこの聞き取り困難症は百人に一人はいるんです。小さい頃から聞き取りにくさを持っていると、それが普通だと思込んでしまいます。私もその内の一人で、この聞こえ方はみんな同じだと思っていたけれど年を重ねていくとともに、違和感を感じるようになり専門の先生に相談しました。

そして私は思います。聞き取り困難症ではなくても、いろんな困りごとを持つてる人はたくさんいるのではないのでしょうか？運動が苦手な人、緊張しやすい子、人前で話すのが怖い子…みんなそれぞれ悩みを持つてる。でも、自分に合ったやり方や、ちょっとした優しさに出会えたら、きっと私と同じように良い流れにのれる日が来ると思います。

私の耳はみんなと少し違うけど、それが私です。聞き返すこともあります。だけどそれは「ちゃんと知りたい、理解したい」と思っている意味でもあります。

そしてこの話が、少しでも多くの人に伝わったら嬉しいです。見た目だけでは分からない、口に出さなきゃ分からない、私がああのセリフを言っても怒らないでくれるとすごく嬉しいです。そうしたら気兼ねなく言えます。

「ごめん！もう一回言って？」

## 第47回少年の主張秋田県大会 優秀賞

北秋田市立鷹巣中学校

3年 <sup>なか</sup>中 <sup>がわ</sup>川 <sup>し</sup>心 <sup>ほ</sup>紡

自信をもって生きること



みなさんは摂食障害という言葉を知っていますか。聞いたことがない、知らないという人もいます。私も自分が摂食障害になるまで、そんな病気があることを知りませんでした。摂食障害というのは、食べることや体型、体重へのこだわりが強くなりすぎてしまい、心や体の健康に影響がでてしまう病気です。

私は小学校三年生くらいの頃から体型が丸くて、多少は気にしていましたが、みんなと同じように過ごしていました。しかし、ごく一部の人が私のことを「おもちちゃん」とか「こぶたちゃん」と呼んで、からかうようになりました。はじめは、ふざけているだけだと思うようにしていました。ですが、だんだんとエスカレートしました。嫌だという気持ちに蓋をできていましたが、それらの言葉は私の心に深く刺さっていきました。そのからかいは、クラス替えをしたタイミングで一旦はなくなりました。

小学校六年生のとき、ふとしたタイミングで当時のことを思い出すようになりました。「私って普通じゃないんだ」「みんなと同じくらいやせないといけないんじゃないか？」焦りが頭の中を支配するようになりました。家でも、通学路でも、学校でもそのことばかり考えるようになりました。周りの目が気になり、全ての視線が私に向いているような気持ちでした。でも、恥ずかしくてこのことを誰にも相談できませんでした。そんな毎日を過ごしているうちに、私は食べるのが怖くなり、食べる量が減っていきました。

体に影響が出始めたのは、小学校六年生の三学期です。冬だったので寒いのは当たり前なのですが、異常に寒さを感じました。体の震えが止まらず、鉛筆を持つのもやっとでした。唇も爪も紫色になり、体温を保つことができません。しかし、体に影響が出るようになってからも、私は体重が減っていることにむしろうれしさを感じていたのです。

楽しみにしていた中学生になりましたが、私の体は中学校生活を楽しめる体ではありませんでした。頑張っ  
て授業を受けても、すぐに体力が尽き、体調が悪くなってしまいます。早退を繰り返し、次第に学校へ行けなくなりました。その後精神科で話を聞き、私が摂食障害という病気であることを初めて知りました。家族が仕事に出かけ、家に一人でも大勢の人に見られているような気になるのです。「太った?」「食べ過ぎ」など聞こえるはずのない声まで聞こえてきました。そこからさらに食べるのが怖くなり、私の体重はさらに減りました。誰かに見られている不安と、学校を休んでいるという罪悪感から、人に会うのも怖くなりました。また、親との言い争いも増え、自分のことが大嫌いになりました。友達との距離も遠くなり、孤独も大きくなっていきました。

摂食障害になってから回復するまで一年間の時間を要しました。ですが「心紡ちゃんは心紡ちゃんだよ」「大丈夫だよ」という友達や家族の温かな言葉が、私を勇気づけてくれました。おかげで今の私は自信をもって生活しています。私は私のような経験を誰にもしてほしくありません。そう強く思っています。ですが、インターネットが普及したことで、摂食障害に悩む人が増えているそうです。私は伝えたいです。人の容姿をバカにしてはいけないこと、どんなに小さな言葉でも、人は傷ついてしまう可能性があること。そして、今も摂食障害で苦しんでいる人、そうでない人も聞いてください。あなたはきれいです。美しいです。かっこよくて、かわいいんです。あなたにはあなたの良さが絶対あります。支えてくれる人も必ずいます。誰よりも自信をもって胸を張って生きてください。

「誰もが安心して自分らしく生活できる」私はそんなあたたかい社会を望んでいます。

## 第47回少年の主張秋田県大会 優秀賞

横手市立十文字中学校

3年 <sup>さ</sup>佐 <sup>とう</sup>藤 <sup>こ</sup>小 <sup>はる</sup>春



### 「ふつう」の顔をした偏見

「じゃあ、このことは、お父さんともよく話し合っただけで決まってくれませんか」  
病院で手術についての説明を受けた際、医師から発せられた何気ない一言。でも私は、うまく返事をする  
ことができなかった。

あ、うちは…父親、いないんだよな……

なんて言えればいいのかわからなくて、愛想笑いを顔に浮かべ、ただ頷いてやり過ごした。慣れている。こう  
いう場面には、医師に悪気がなかったのもわかっている。でも、やはり自分の家庭は「ふつう」ではないんだ  
と思ひ知らされたような気がして、なんともいえない気持ちになった。

私の家は、いわゆる母子家庭だ。物心ついた頃から、家には私と母しかいなかった。そんな私には、今でも  
はっきりと覚えている出来事がある。ある日、ふとした流れで友人に「うち、父親いないんだよね」と伝えた  
ところ、友人は少し驚いたような顔をして、「あ…なんか、ごめん」と口にしたのだ。私は事実を言っただけ  
なのに、そこに流れていた空気が一瞬にして気まづくなってしまった。そのとき、友人に対してどう返答した  
のかは、もう覚えていない。ただ、最初に湧き上がった感情は、悲しみや落胆ではなく、苛立ちだった。「なん  
か」とは何だ。この人は私に対して何を謝っているのだろうか。もはや言った本人でさえも、わかっていないの  
では、そもそも、私の生活は、誰かに謝られるようなものじゃない。

母子家庭がこうした偏見の目で見られてしまうのは、「よく知らないけど、片親の家庭ってなんとなく不慣  
れな感じがする」という勝手なイメージが、人々の間で共有され、いつの間にか常識のようになってしまったから  
ではないだろうか。

では、なぜこのようなイメージが広がっているのだろうか。私は、インターネットが広く使われるよ  
うになったことが、一つの原因であると思う。インターネットは便利なものだ。だが、多くの人が同じ情報にふれるこ  
とができる分、あるイメージや印象が一気に広まる可能性がある。

試しに「母子家庭」と検索してみると、「貧困」や「子育て支援」といった、ネガティブな印象を与えるワ  
ードが並んだ。このような情報だけを見てしまうと、母子家庭=かわいそう、という発想に至っても無理はない。  
きっと私に謝ってきた友人も、この考えが心の奥底にあったのだろう。

たしかに、両親が揃っている家庭と比べて、母子家庭はいろいろと苦労する場面があると思う。お金のこと、  
時間のこと、将来のこと、世間からの目…。でも母と過ごす毎日は、むしろ幸せで満ちあふれている。だから、  
母子家庭がかわいそうだと決めつけないでほしい。

世の中には、様々な境遇の人がいる。私のように一人親家庭の人、外国にルーツがある人、障害をもつて  
いる人…。こうやって挙げてみると、何をもって「ふつう」なのかわからなくなってきた。誰一人として同じ  
境遇の人はいないはずなのに、なぜか世の中は、「ふつう」という枠に人を当てはめたがる。当てはめた枠は偏  
見の塊で、自他の可能性を押し殺しかねない。

私はこうした「ふつう」の顔をした偏見に縛られないために、視野を広げ、客観的になりたい。ある一点ば  
かりを見てしまうと、考え方が偏ってしまいがちだ。それはすなわち、誰かに自分の「ふつう」を押し付ける  
ことに繋がってしまう。私はこれまで、様々な場面で「ふつう」を押し付けられてきたからこそ、同じような  
ことで他の人が悩まなくてすむように、相手を慮れる大人でありたいと思った。

自分では「ふつう」だと思っていたことが、誰かを傷つけているかもしれない——そのことに、あなたは気  
づいているだろうか。

## 第47回少年の主張秋田県大会 優良賞

大館市立北陽中学校

3年 渡 邊 穂乃香



### 水を大切にするために

あなたは「水」を大切にしていますか。こう問われたとき、自信をもって大切にしていると言えるでしょうか。私は、普段当たり前のように使っている「水」をもっと大切にしたい方が良く、そう思う大きなきっかけがありました。

今年の三月下旬、私は大館市が行っている海外研修に参加しました。舞台はニュージーランド。

「ニュージーランドでは、水は貴重な資源としてとても大切にされています。」

そう、海外研修の事前学習で学び、「節水」という言葉を何度も耳にしました。しかし、毎日当たり前のようにふんだんに水を使っている私にはあまり響かず、何となく聞き流していました。もちろん、ニュースや社会の授業で世界中に水不足で困っている国があることは知っていましたが、身近に捉えることはできませんでした。そして迎えた海外研修の日、ガイドの人から

「ニュージーランドではここ三ヶ月間、雨が降っていません。」

と言われ、衝撃を受けました。日本で生活している中で、三ヶ月間雨が降らないということを経験したことがありません。

ホームステイ先では、シャワーの時に出す水の量は少しにすること、水を出したままにしないことを伝えられました。ニュージーランドでは雨水を貯め、ろ過したり浄化したりしてシャワーの水に使うなど、家での生活に必要な水を雨水で補う家庭がほとんどだそうです。だからこそ、雨水はとても貴重です。しかし、雨が三ヶ月間降っていません。動物の飼育も盛んであるため、動物たちに与える水も確保しなければいけません。ニュージーランドで生活している人々は水の大切さを知っていて、節水の習慣が身に付いていると感じました。

さて、私達ははどうでしょう。海外研修を終えた今、私自身、以前より水を大切にすることを身に付いたと思います。

しかし、周りを見ると、ニュージーランドに行く前の私のような、蛇口を力強くひねる姿、使っていないのに水を出したままにする姿が多く見られます。それはきっと私達は災害が起こらない限り、水に困るという経験をしないからだだと思います。

今年の七月、全国的に気温が高くなりました。雨が降らない日が続き、田んぼの水が足りず、一部の田んぼでは、稲が枯れたというニュースを見ました。気温が高いことも影響していると思いますが、ニュージーランドの状況に似てきているのではないのでしょうか。

最近、私の家の周りの木がどんどん切られ、更地になりました。調べてみたところ、森林を伐採したことにより、水源が枯渇することもあるようです。森林には、雨水を蓄える働きがあり、蓄えられた雨水が地下に浸透することで安定した水量の確保に繋がります。他にも、水質の浄化や降水量の調節をする働きもあるため、森林は私達の生活に欠かせないものだそうです。私達の生活を便利にしたり、環境をよくしたりしたいと考え行動したことが、実際は伐採によって使うことができる水を無駄にしていることになるのかもしれない。

今世界中で大きな問題となっている地球温暖化は、水不足や洪水を悪化させるなど、世界中に深刻な影響をもたらすと考えられています。「水」は限りある資源だと私は思います。水を作ることは難しく、私達の生活に必要な不可欠です。蛇口をひねること、たったそれだけで簡単に水を得ることができる私達は、本当に恵まれています。しかし、それを当たり前だと勘違いしてはいけません。水を使う時は最低限の量だけ出す、たった数秒間だとしても、水を使わないのなら止める、ニュージーランドの人から学んだ、この小さな小さな「節水」の積み重ねが未来の誰かの助けになるのかもしれない。私達一人一人が、限りある「水」を大切にするために行動することが、今求められています。

## 第47回少年の主張秋田県大会 優良賞

秋田市立岩見三内中学校

3年 <sup>たか</sup>高 <sup>はし</sup>橋 き い

知ること、そして欲張らないこと



皆さんはストリートチルドレンを知っていますか。中には知っている、という人もいるでしょうが、私はついこの前まで、その存在を知りませんでした。

私が初めてその存在を知ったのは、道徳の時間に観た「世界がもし100人の村だったら」というDVDです。これは20年ほど前のテレビ番組ですが、そこには路上で暮らす子どもたちが映っていました。その生活ぶりに私はとてもショックを受けました。クラスの友達の中には涙ぐんでいる人もいました。そこで私は、もっとストリートチルドレンについて知りたい、と思いました。

一体、親のいない彼らはどうやって暮らしているのでしょうか。彼らは町の通りで花を売ったり、信号待ちをしている車の窓を拭いたりして小銭を得ています。一日で稼げるのは約400円だそうです。また、大人に交じってゴミ山でビンや金属などを拾い、買い取ってもらっている子もいます。その場合、得られるのは一日約100円だそうです。日本に暮らす私たちならとうてい生活できない金額です。

そして、このような暮らしをしている子どもたちが、世界に一億人以上いると言われています。多くはアフリカや南米、東南アジアといった発展途上国にいますが、なんと豊かなはずのアメリカにも250万人いると推定されています。しかし、確かな数は誰も分かりません。なぜなら調査に含まれない子どもが多数いるからです。

ではなぜ、ストリートチルドレンになってしまうのでしょうか。国によって原因は様々ですが、主に「貧困」が挙げられます。紛争や自然災害などによって国全体が貧しく、子どもたちを育てられない、という場合です。また、豊かな国にあっても、失業などのストレスから酒や麻薬におぼれて、家族がバラバラになり、子どもが家を出る、といった場合です。

ストリートチルドレンを調べながら、私は自分の生活と比べずにはいられませんでした。私には家があり、十分な食べ物があります。毎日学校に通って勉強し、将来は看護師になりたい、という夢もあります。そして何より、その夢を応援してくれる家族がいます。今まではこれを当たり前、と思い、そのことに感謝することはありませんでした。しかし世界には、私が当たり前、と思っていたことが手に入らない子どもたちがたくさんいます。

私は、自分に何かできることはないか、と考えました。一番先に頭に浮かんだのはお小遣いから寄附をすることでしたが、しかし、それは余りに小さな力です。私はがっかりしました。

そんな時、私は新聞のとある記事に目が留まりました。今年5月に亡くなったウルグアイ元大統領ホセ・ムヒカ氏は「世界でいちばん貧しい大統領」と呼ばれていました。彼の有名なスピーチにこんな言葉があります。

「貧乏とは、少ししかもっていないことではなく、もっともっとと欲しがることだ。」

日本で暮らす私たちは、たくさんの物を持っています。安心できる家、安全な水、清潔な衣服、読み切れないうほどたくさんの本に、情報があふれているタブレット。こんなに恵まれている環境で暮らしているにも関わらず、私たちは「もっともっと」と満足することを知りません。

私は今回、ストリートチルドレンの存在を知りました。そしてこれからも、社会の様々な状況に興味をもって知っていきたいと思うし、自分の置かれた環境に感謝して生きていきたいと思っています。みなさんはどう考えますか。

## 第47回少年の主張秋田県大会 優良賞

湯沢市立皆瀬中学校

3年 佐藤 来空

皆瀬にスマイルを



少子高齢化。過疎地区。私の住んでいる秋田県には、たくさんの課題があります。皆さんは、そういった課題にどのように向き合っているのでしょうか。

「皆中学生が皆瀬を本気で笑顔にする。」

私が通う湯沢市立皆瀬中学校では、一昨年から「皆瀬スマイルプロジェクト」を立ち上げ、地域貢献、社会参画を目標に、皆瀬をPRする活動を行っています。中でも力を入れて取り組んでいるのが、皆瀬地区のブランド牛である皆瀬牛の牛すじを使ったカレー、「皆瀬スマイルカレー」の販売です。

私の住んでいる秋田県湯沢市、皆瀬は自然豊かな地域です。皆瀬牛だけでなく、小安地区の大噴湯や温泉も人気で、たくさんの観光客が訪れます。私は、自慢できることがたくさんある故郷をとっても大切に思っています。

しかし、今の皆瀬地区は大きな課題を抱えています。9、3、2、4、5。この5つの数字が何を表していると思いますか。もう一度言います。9、3、2、4、5。これは、皆瀬の令和元年から五年間の出生数です。この数字を見て、私は大きな危機感を持ちました。自分が大人になったとき、皆瀬はどうなってしまおうのだろう。大好きな皆瀬がなくなるかもしれない。もっと皆瀬の魅力を知ってもらえば、たくさんの人が皆瀬に来てくれるんじゃないか。そうすれば、皆瀬に住みたいと思ってもらえるんじゃないか。

皆瀬をアピールしたいという思いがあっても、中学生である自分は、どうせたいしたことはできないと思っていました。しかし、中学一年生から始まった「皆瀬スマイルプロジェクト」。学校祭でのカレーや、グッズの販売を通して、「このカレーおいしいね。」「中学生がこういう活動をしてくれるのはうれしいな。」という言葉聞き、温かい気持ちになると同時に、「自分でも皆瀬のためにできることがある。ただ行動に移していなかったただけだったんだ。」と強く感じました。

ただ、学校祭だけの活動では、皆瀬に近い人にしかPRできません。秋田県内や全国の人たちに皆瀬をアピールしないと意味がないと思いました。そこで、二年生になった昨年は、さらにアピールの幅を広げたいと考えました。友達や先生方と話し合い、紅葉シーズンに合わせて、皆瀬の産業物産館で「皆瀬スマイルカレー」を販売することにしました。紅葉の時期、産業物産館近くの大噴湯にはたくさんの観光客が来ます。その人たちにアピールできれば、さらに皆瀬の魅力を知ってもらえます。しかし、販売の準備をしても、自信はあまりありませんでした。もしかしたら、見向きもされないかもしれない。そんな不安は、すぐに無くなりました。フランスやタイからの観光客、福岡県から来た絵本作家の方、たくさんの方々がカレーを食べてくれました。二時間半で八十食を完売することができました。何よりうれしかったのは、

「中学生がやっているの？すごいね。」「こんなにおいしいカレーが食べられるとは思わなかった。」

という声を直接聞いたことです。ふるさとの魅力を中学生の力でも広げることができた。皆瀬の力になれた。今までにない満足感を感じました。

中学生でも本気で取り組みれば、故郷の魅力を伝えられる。思いだけではだめ。本気で行動に移す。私は今年、皆瀬スマイルプロジェクトの実行委員長になりました。今年は、さらに効果的に皆瀬のよさを知ってもらうため、カレーをレトルト化することを目標に活動しています。

「皆中学生が皆瀬を本気で笑顔にする」

今年も本気で取り組みます。皆さんも自分のふるさとのために本気で行動してみませんか。

## 審査講評

### 審査委員長 菅原 潤 氏（秋田魁新報社統合編集本部整理部長）

審査委員長を務めました秋田魁新報社統合編集本部整理部長の菅原です。審査委員を代表いたしまして、講評をお話させていただきます。

まずは受賞者の皆さん、おめでとうございます。このようなステージで大勢を前にしての発表は大変緊張したことと思いますが、皆さんの堂々とした発表ぶりに感心しながら、発表を聴かせていただきました。

審査は論旨や内容、表現力、発表態度の観点から行いましたが、どの発表も皆さん1人1人の熱意が伝わってくる素晴らしい発表で、審査委員一同、非常に悩みながら審査を行いました。

それでは、1人1人の発表に触れながら、コメントをお話させていただきます。

最優秀賞の二田暖乃さんは、「聞き取り困難症」を抱えながらも卑屈になることなく、相手の立場に立った考え方や明るく、前向きに捉えて向き合っていくとする発表内容で、非常に心を打たれたという声が審査委員からあがりました。また「聞き取り困難症」だけではなく、「多様性」という言葉を踏まえた内容の濃い提言になっていたと思います。表現も非常に柔らかく、二田さんの柔軟な感性を感じさせられる発表でした。

優秀賞の中川心紡さんは、摂食障害を経験した中で感じたこと、考えたことを時系列に沿って丁寧に伝えてくれました。当時の辛い状況が伝わってきながらも、最後には聴衆の皆さんに明るく呼び掛ける形で思いを伝えてくれたところが非常によかったと思います。

同じく、優秀賞の佐藤小春さんは、自らの経験や悩みと、「ふつう」という言葉からイメージを広げて、「ふつう」とはなんであるのかという疑問について発表してくれました。インターネットを使って調べたことなどを踏まえて、自ら解決策を見出していくという思いが感じられる発表でした。

優良賞の渡邊穂乃香さんは、ニュージーランドでの海外研修の経験から、水に関して問題意識を持ち、今夏の全国的な水不足や森林の保水機能、地球温暖化などの環境問題につなげていて、非常に内容の濃い発表になっていたと思います。

同じく、優良賞の高橋きいさんは、ストリートチルドレンの問題を「外国のことだから」と他人事とせず、自分にあてはめて、非常に中学生らしい感性で考察した内容を発表してくれました。

同じく、優良賞の佐藤來空さんは、地域のブランド牛である皆瀬牛を使ったカレーを作って販売するなど、地域活性化に貢献されていて、皆瀬への思いや活動の熱意が伝わってくる発表でした。

以上、簡単ではございますが、私からのコメントとさせていただきます。

皆さん、本日は素晴らしい発表をありがとうございました。

わたしの主張2025－第47回少年の主張秋田県大会－  
発表原稿応募学校・学年別一覧

市町村名	中学校名	応募内容			
		応募数	学年別		
			1	2	3
鹿角市	十和田中学校	2			2
大館市	北陽中学校	1			1
北秋田市	鷹巣中学校	1			1
秋田市	秋田東中学校	1		1	
	泉中学校	1		1	
	将軍野中学校	1		1	
	岩見三内中学校	2			2
由利本荘市	大内中学校	1			1
仙北市	角館中学校	1		1	
横手市	横手南中学校	1	1		
	十文字中学校	1			1
湯沢市	皆瀬中学校	2			2
合計	12	15	1	4	10

わたしの主張2025－第47回少年の主張秋田県大会－

審査委員

審査委員長

菅原 潤 秋田魁新報社統合編集本部整理部長

審査委員

佐々木 真 NHK秋田放送局副局長

大山 裕 秋田県中学校長会長

熊谷 隆 益 一般社団法人青少年育成秋田県民会議会長

佐藤 整 秋田県教育庁義務教育課指導主事

糯田 正 宏 秋田県あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長

(敬称略)

# わたしの主張2025

## —第47回少年の主張秋田県大会—発表原稿募集要項

### 1 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められる。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく伝え、理解してもらおう力などを身につけることが大切である。

わたしの主張2025は、子どもたちにとってこれらの契機となることを願い、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の秋田県予選を兼ねて実施するものである。

### 2 対 象

県内に在住の中学生及びそれに相当する学籍又は年齢にあるもの

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。

### 3 発表内容

- ① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- ② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど。
- ③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

上記のような内容で、心からの思い、考えたことや感銘を受けたことなどを、少年らしい自由でユニークに、飾り気のない言葉でまとめたもの。

### 4 原稿書式

- (1) 5分程度で発表を終えるよう作文し、A4判400字詰原稿用紙（縦書き、4枚程度）に清書したものとする。（発表時間は、5分30秒を限度する。）
- (2) 1行目にタイトル、2行目に都道府県、学校名、学年、3行目に発表者氏名、4行目以降に本文を記載する。
- (3) 別紙（原稿用紙等）に住所、学校名、学年、氏名（ふりがな）及び性別を記載する。

### 5 注意事項

- (1) 原稿は未発表のもので、本人自筆による原本に限る。（障害等により自筆ができない場合は、ワープロ可。）
- (2) 生成AIを利用した執筆・推敲は認めない。

### 6 応募締切

令和7年7月28日（月）当日消印有効

## 7 送付先

秋田県あきた未来創造部 次世代・女性活躍支援課  
調整・結婚・若者支援チーム わたしの主張係あて  
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1  
TEL 018-860-1552

## 8 県大会

### (1) 開催日時

令和7年9月23日(火・祝) 13:30~15:00

### (2) 開催場所

秋田拠点センターアルヴェ きらめき広場(秋田市東通仲町4-1)

### (3) 表彰

事前の原稿審査を通過した6名による主張発表県大会を行い、審査の上、次の各賞を贈り、表彰する。

最優秀賞 1名 優秀賞 2名 優良賞 3名

なお、発表者全員に表彰状、メダル、図書カード(最優秀賞1万円、優秀賞5千円、優良賞千円)を贈呈する。

### (4) 独立行政法人国立青少年教育振興機構への推薦

県大会の最優秀賞受賞者(秋田県大会代表者)は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」(11月16日(日)開催予定)の北海道・東北ブロック代表候補者として、独立行政法人国立青少年教育振興機構へ推薦する。

なお、全国大会には北海道・東北ブロックから2名が出場する。(全国大会発表者は5ブロック代表12名で、各ブロック代表は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が行う書類審査によって選考される。)

## 9 その他

(1) 応募作品は返却しない。

(2) 県大会出場者作品の著作権は主催者に帰属し、広報その他の資料として活用する。

(3) 県大会出場者の発表の様子は撮影し、後日県公式ホームページにおけるYouTubeチャンネルにおいてアーカイブ配信を行う。(限定公開を予定。)

主催 秋田県・独立行政法人国立青少年教育振興機構

共催 秋田県教育委員会

後援 秋田県中学校長会・秋田市・秋田市教育委員会・一般社団法人青少年育成秋田県民会議・青少年育成市町村民会議・秋田魁新報社・朝日新聞秋田総局・毎日新聞秋田支局・読売新聞秋田支局・産経新聞秋田支局・北羽新報社・NHK秋田放送局・ABS秋田放送・AKT秋田テレビ・AAB秋田朝日放送・エフエム秋田

## わたしの主張2025

### —第47回少年の主張秋田県大会—事前審査基準

#### 1 審査委員

北・中央・南教育事務所（出張所を含むこととする。以下、同じ。）の国語科担当職員

#### 2 審査方法

以下により、県大会への出場者として計6名を選出する。

- (1) 県に応募のあった作文を、中学生の所属する中学校の所在地により、北・中央・南教育事務所に割り振り、各教育事務所ごとに割り振られた作文について審査を行う。
- (2) 各教育事務所における審査委員が、審査基準の項目ごとに審査を行い、合計点により上位2名を決定する。  
なお、上位2名について同点があった場合は、各教育事務所における審査委員で協議して、決定する。
- (3) 各教育事務所で選出した計6名を県大会出場者とする。
- (4) 全体の応募数が6名に満たない場合や、各教育事務所管内の応募数が2名に満たない場合、その他出場者決定について疑義が生じる場合などは、事務局（県次世代・女性活躍支援課。以下、同じ）及び審査委員で協議して決定する。

※ なお、各教育事務所に割り振られる作文が15作品以上となる場合は、審査基準と評価基準に基づき、事務局において予備審査を行い、15作品まで絞った上で各教育事務所へ審査を依頼する。

#### 3 審査基準と評価基準

##### (1) 審査基準

主に論旨について、相対的評価を行う。

- ア 中学生らしい鋭い感性で、新鮮な主張であるか。
- イ 新しい情報や視点があるか、主張がはっきりしているか。
- ウ 主張の内容が、個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- エ 明確でわかりやすく、感銘や共感を与えるものか。
- オ 希望や提言、提案を実現・実践する意欲が感じられるか。
- カ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

##### (2) 評価基準

- ・ 極めて優れている … 評価点5点
- ・ 優れている … 〃 4点
- ・ 普通 … 〃 3点
- ・ やや劣っている … 〃 2点
- ・ 劣っている … 〃 1点

#### 4 審査の図解

項目	配点
ア 中学生らしい鋭い感性で新鮮な主張であるか。	5点
イ 新しい情報や視点があるか、主張がはっきりしているか。	5点
ウ 主張の内容が、個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。	5点
エ 明確でわかりやすく、感銘や共感を与えるものか。	5点
オ 希望や提言、提案を実現・実践する意欲が感じられるか。	5点
カ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。	5点
合計	30点

→各教育事務所において、合計点により上位2名を決定する。

→各教育事務所です選出した計6名を県大会出場者とする。

わたしの主張2025  
—第47回少年の主張秋田県大会—審査基準

## 1 審査方法

- (1) 県大会出場者6名による発表大会において、各審査委員が審査基準の項目ごとに審査を行い、評価点を付与する。
- (2) 各審査委員が記録した各出場者の評価点を集計し、合計点の高い順に順位を決定する。  
なお、同点があった場合は、審査委員の協議により順位を決定する。
- (3) 1位を最優秀賞（全国大会秋田県代表）、2～3位を優秀賞、4～6位を優良賞とする。

## 2 審査基準と評価基準

### (1) 審査基準

#### ①論旨・内容について（配点30点）

- ア 中学生らしい鋭い感性で、新鮮な主張であるか。
- イ 新しい情報や視点があるか、主張がはっきりしているか。
- ウ 主張の内容が、個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- エ 明確でわかりやすく、感銘や共感を与えるものか。
- オ 希望や提言、提案を実現・実践する意欲が感じられるか。
- カ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

#### ②表現・音声・話し方について（配点10点）

- キ 主張の表現が聴衆に感銘と共感を与えているか。
- ク 話し方に熱意や迫力、説得力があり、聞き取りやすいか。

#### ③発表態度について（配点10点）

- ケ 中学生らしい品位ある態度か。
- コ 眼のおきどころが自然であり、聴衆に向かって落ち着いて話しているか。

### (2) 評価基準

- ・ 極めて優れている … 評価点5点
- ・ 優れている … 〃 4点
- ・ 普通 … 〃 3点
- ・ やや劣っている … 〃 2点
- ・ 劣っている … 〃 1点

※ 発表時間は5分程度とされているが、その範囲については4分30秒から5分30秒までとし、大幅に発表時間が超過した場合は、審査委員の協議により減点する。

※ パフォーマンス（服装は自由とし、小道具などを使用してもよい）を取り入れてもよいこととする。

### 3 審査の図解

項目		配点
①	ア 中学生らしい鋭い感性で、新鮮な主張であるか。	5点
	イ 新しい情報や視点があるか、主張がはっきりしているか。	5点
	ウ 主張の内容が、個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。	5点
	エ 明確でわかりやすく、感銘や共感を与えるものか。	5点
	オ 希望や提言、提案を実現・実践する意欲が感じられるか。	5点
	カ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。	5点
②	キ 主張の表現が聴衆に感銘と共感を与えているか。	5点
	ク 話し方に熱意や迫力、説得力があり、聞き取りやすいか。	5点
③	ケ 中学生らしい品位ある態度か。	5点
	コ 眼のおきどころが自然であり、聴衆に向かって落ち着いて話しているか。	5点
合計		50点

→各審査委員が付与した評価点を集計し、合計点の高い順に順位を決定する。

## 第47回少年の主張全国大会 内閣総理大臣賞受賞作品

鳥取県 鳥取市立桜ヶ丘中学校

3年 <sup>たに</sup>谷 <sup>ぐち</sup>口 <sup>てつ</sup>鉄 <sup>ま</sup>馬

### 伝える

手を挙げた瞬間、みんなの息を吸う音が聞こえる。そして合唱が始まる。穏やかに始まった合唱が坂を登るように盛り上がっていく。僕はどんなふうに歌ってほしいかを、手で、そして全身で表現する。音楽が弾ける。僕が好きな瞬間のひとつだ。

僕は中学校で、合唱コンクールの指揮者を三度務めた。今年の曲は「心の瞳」。練習はまだ始まったばかりだ。

僕が指揮をするのは、口唇口蓋裂という病気の影響がある。僕の唇では、歌う時に上手に発音をすることができないが、指揮者なら、みんなの役に立つことができるからだ。

僕は生まれた時、唇と上の顎が裂けていた。このままでは、母親の乳を吸うことができずに死んでしまう。成長しても唇の隙間から息が漏れてうまく話すことができない。僕は、生まれてすぐに手術を行なった。

顎と唇の隙間は一応塞がったものの、鳥取の病院では、それ以上の対応はできなかった。両親が必死になって探した岡山の病院で、赤ちゃんの僕はまた手術を受けた。手術を何度も繰り返し、何年も通院を繰り返した。今でも年に一度、岡山に通っている。そのおかげで、今では食事を取ることもできるし、会話することもできるようになっている。

しかし、人と話す時に心に引っ掛かりがあるのも事実だ。発音がしにくいので、僕の言葉がどう受け止められているのか、相手の表情を気にしながら話すこともある。実際、何度も聞き返されることや、発音のことをからかわれることがあった。何度も聞き返される時は、相手に対して申し訳ない気持ちになる。からかわれた時は、馬鹿にされたことに苛立ちを覚える。何を言っても無駄だと感じて諦めるときがある。

小さい頃、口元にマスクをつけた僕のことを、見知らぬ女性が「かわいいねえ」と言った。しかし、マスクをとった僕の口元を見た女性は、僕のことを「かわいそうな子」と言ったそうだ。「かわいい」と「かわいそう」。わずかな違いかもしれない。けれど母にとっては大きな違いだった。「かわいそう」という言葉に、「不幸な子」という意味を感じたのかもしれない。母は「鉄馬は可哀想な子じゃない！」と強く言い返したという。

そんな母も、「こんな体で産んでしまっでごめんね」と口にしたことがある。そのとき僕は「気にしてないし、大丈夫だ」としか返せなかったけれど、両親にとっても感謝しているのだ。この病気を治してくれるためにたくさんのお金をしてもらった。歯の矯正をするにも、僕の場合は特別な処置が必要なので、岡山の歯科医に毎月通わせてもらっている。ほとんどの場合、父が送迎してくれる。こんなふうに、お金も、時間も、愛情もたくさんかけてくれた。僕の唇は、その証だから。

そんな僕が、中学一年生で合唱の指揮者になった。未経験のこの役割に強くひかれ、すぐ立候補した。実際にやってみると、どうやったら歌い手に的確に伝わるか、手で伝える面白さを知った。自分なりに指揮をアレンジして、どの部分をどう歌ってほしいのか、楽しみながら伝えることで、今までにない達成感を得られた。正しい発音は一つだけど、人を感動させる音楽は無限にある。僕は、僕の指揮でそれを表現できることに、言いようのない喜びを覚えた。指揮することで表現できる世界の広さは、僕が歌うことで表現できる世界を大きく飛び越えていった。

口唇口蓋裂の子供たちは、話すこと、表現することを躊躇しがちだ。でも、自分のことを伝えたい、表現したいと強く思っている。諦めずに伝えてほしい。言葉でも、それ以外でも、自分を表現する方法は、きっとある。伝えたい思いを受け止めあえたら、病気や障害、色々な違いにかかわらず、お互いの世界はもっと広がるはずだ。

今年の合唱曲「心の瞳」はこう始まる。  
「心の瞳で君を見つめれば、愛すること、それがどんなことだか、分かりかけてきた」  
言葉で言えない胸の暖かさを、見つめ合うことで伝えるという詩だ。  
伝わる。きっと伝わる。だから伝えることを諦めないでほしい。言葉でも、音楽でも、見つめ合うことでも、  
自分らしいやり方が、きっとあるはずだ。

---

わたしの主張 2025  
－第47回少年の主張秋田県大会－発表記録集

令和8年1月

編集・発行 秋田県あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課  
秋田市山王4丁目1番1号  
TEL : 018-860-1552 FAX:018-860-3895  
E-mail : persons@pref.akita.lg.jp

---



サン サンデー  
毎月第3日曜日は  
あきた家族ふれあい  
サンサンデー



あきた家族ふれあいサンサンデー  
シンボルマーク

家庭・学校・地域のきずなを深め、  
すこやかな青少年を育てましょう。